

# 国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの  
メッセージ



## フランスの寛容性に助けられて

### 助けられてばかり

公務員になる直前の一人旅、2泊だけ滞在したパリに、4年後、妻と0歳の息子連れて再訪——今度は2年。人生何が起こるか分からないものです。フランスでは、人と人との（言葉を越えた）つながり、社会の寛容さについて強烈に感じ、考えさせられる生活を送りました。

パリの市内交通手段といえばメトロ（地下鉄）ですが、階段が多いことや雰囲気の暗さもあり、子連れの際は専らバスを選択しました。バスには老若男女、様々な肌の色をした人が乗っています。ベビーカーの乗り降りに難儀していると、必ずといっていいほどドア付近に立っている乗客が手を差し伸べてくれたり、ベビーカー優先部分に（そうと知らずに）留まる観光客に対して私と妻の代わりに注意して場所を空けてくれたり、車内でぐずる息子をあやしてくれるのみならず、持っていたお菓子まで息子にくれたり（ずいぶん甘ったるいチョコレートでした）……。我々が外出時、常に持っていた一抹の不安感が周囲に伝わっていたのかも知れませんが、子どもは社会全体で支え育てるという意識が完璧に浸透していることに、当初は驚きの連続でした。

メトロでは2回の乗車に1回くらいの割合で、貧困を訴えながら車内を回る人と、その人に小銭などを渡す乗客という光景に出くわしました。また、冬のある日の通勤途中、路上生活者にサンドイッチを手渡す女性の姿を見かけました。もちろん貧困はそれ自体がフランスの大きな社会問題なのですが、市民が現実を直視し、各々が自分にできる範囲で「正しいこと」をするという意志を感じました。先のテロ事件でも、彼らの意志の強さは街中で見られましたが、終わりの見えないテロとの闘いの中であって、それが社会の不寛容へと変貌していないことを祈るばかりです。

赴任中、日本人同士のつながりにも助けられたことはいうまでもありません。特に、妻子を何度も家に招いて

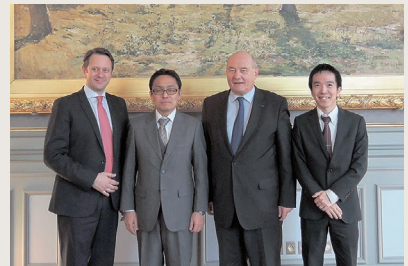
高松市創造都市推進局観光交流課 主査 細川 和久

いただき、息子の急病時には日曜日の早朝にもかかわらず対応していただいた医療通訳者の方には、感謝の言葉も見つかりません。また、家族ぐるみで付き合いのできたパリ事務所の同僚はかけがえのない私の財産です。

### つながりを実感

本部とパリ事務所では、日仏自治体交流会議という、姉妹都市等の提携関係にある自治体が2年ごとに会する国際会議を主に担当しました。2014年10月に本市で開催した第4回会議の前後は、双方の要望の擦り合わせから突発的なVIP対応まで多忙を極めましたが、フランス側の参加者から異口同音に「瀬戸内海は素晴らしい」、「また来たい」との言葉をいただき、疲れの吹き飛ぶ思いでした。さらに数カ月後、別の会合で再会したパリ近郊のある市の副市長が、何と私の顔を見るなり「高松は良かった」と声を掛けてくれたのです。非常に些細なことでしたが、フランス人とつながりを持ってたという実感の湧いた嬉しい出来事でした。

日々の暮らしの中で次第に身につけつつあった、拙くともとにかく誠意を持って伝え（ようとす）る姿勢を、かの副市長は認めてくれていたのかも知れませんが、公私とも失敗に失敗を重ねた2年間で、フランスで得られた人とのつながりは、私に大きな自信を与えてくれました。



姉妹都市トゥール市で、バパリ・トゥール市長（右から2人目）を表敬訪問

### プロフィール・ほか

民間企業勤務を経て2010年高松市入庁。  
2010年4月～2013年3月 文化芸術振興課  
2013年4月～2014年3月 クレア本部交流親善課  
2014年4月～2016年3月 クレアパリ事務所  
帰任後、現職。